

学校選びと初登校

9月1日(水)
日本の学校だと中途半端な時期の帰国らしく、行きたいと思った中学校(私立)は編入試験をたまたま行わず。公立中学校へ通うことになった。初登校はお母さんと一緒に。お母さんが帰ったあとに教室であいさつをして、先生が「何か質問のある人は?」と聞いてくれたけど、クラスメイトから質問は何もなくて寂しかった。弟はクラスで「帰国子女なのになんで英語ペラペラじゃないの?」と言われたらしい。でも、早速友だちがたくさんできたみたい。いいなー。



入学先・編入先は子どもの意見を重視 保護者としての希望を押しつけない

やってよかった! ●渡航前と同じ地元の公立校に編入したうちの子は、みんなから「○○ちゃんお帰り!」と声を掛けてもらい、お互いの成長に驚きながらもすぐに打ち解けられていた。(Iさん) ●学校選びは、帰国を見越して、夏休みの一時帰国で帰国生の多い学校の編入試験を受けて合格していたのでスムーズだった。帰国後の学校選択の際、重点を置いたのは、同じような体験を持つ生徒が多く、学校側が子どもたちの異文化体験を大切にしてくれること、習得した英語を維持する環境が整っていることなど。(Kさん)

やればよかった... ●編入先は海外に渡る前と同じ地域の公立中学校にした。これは娘にとってかなり精神的な負担が軽かったようだ。(Sさん)

やればよかった... ●帰国生クラスのある私立の学校へどうしても入りたいという気持ちを父母共に持っていたため、子どもの「海外に渡る前と同じ地域の公立校に行きたい」という意見を聞かないという結果に。編入してしばらくは、そのことで親をうらんでいる様子だった。なぜ、帰国生クラスのある私立の学校へ入りたいとわたしたち親が思ったかをもっと細かく説明できればよかった。(Sさん) ●日本の子どもたちは、バンバンと意見交換をするような積極性を持っていないこともある、と教えてあげておけばよかった。編入初日に子どもが、友だちがあまりできなかったことにショックを受けていたので。(Iさん)



7月11日(日) 友だちとの別れと帰国

帰国1週間前の日曜日、仲のよかった友だちを家に15人招待して、お別れパーティーをした。あらかじめ住所やメールアドレス、「Facebook」や「Skype」のアカウントを伝えあって、少し心が落ち着いた。と言っても、明後日はついに帰国の日。日本の空港に到着したら、みんなが日本語を話してるんだよね! ひゃ〜!



パーティーなどではじめをつければ 帰国する実感がわき、前向きになれる

やってよかった! ●お別れパーティーをすることで「本当に帰国するんだ」と実感した様子。はじめをつけることにより、気持ちが日本にシフトしていったようだ。親としては「昔と違ってインターネットがあるからたくさん交流できていいね、また会いに来ようね」と前向きに話した。(Hさん) ●会いたい子たちとはできるだけ会わせてあげること、現地の風景の中で写真をできるだけたくさん撮ってあげて心なげかけた。(Mさん) ●交友関係の広がった娘は友人を招待したり、されたりが多く、引越準備もある中で大変だったけれど、親として送り迎えやパーティーの準備は積極的にするようにした。(Yさん)

やればよかった... ●当時はまだネット環境が充実していなくて、メールアドレスなどを伝え合うことはできなかった。いまのようなネット環境があれば...と思う。(Uさん) ●子ども同士で連絡先を交換しても一時的な住所だったりして、連絡がとれなくなってしまふ友だちもちらほら。親子でお付き合いしていたところが、確実に連絡を取り合える先として残った。子どもが大事だという友だちとは、親子でのお付き合いができればよかったかも。(Eさん)

やればよかった... ●子どもには帰国の準備ばかりさせて、現地での気持ちの区切りをつけさせてあげられなかった。せめて、仲のいい子たちと最後の思い出作りをさせてあげればよかった。(Aさん)



帰国の「告知」から帰国後約1年ちょっとまでの戸惑いや悩みを追う! 帰国生・帰美ちゃんの20カ月ダイアリー

およそ半年後の帰国を告知されてから帰国後約1年弱。この20カ月の間に子どもに生じるさまざまな悩みを、ある女の子の日記でお届け。それぞれの段階で先輩保護者たちが感じた「やってよかったこと」と「やればよかったこと」をご紹介します。

きみ 帰美
主人公。アメリカの現地校に3歳から10年間滞在した中学2年生。アメリカ生活が体に染み込んでいる。

だい き 大帰
帰美の弟で小学3年生。アメリカでは日本人学校に通っていたため、英語はほとんど話せない。

帰国に対する戸惑い

5月7日(金)
日本人学校に通っていた弟はわりと無邪気に日本のアイドルブックなんかを見ているけど、私はまだ、そんな気分になれない。一時帰国は一度、1週間くらいはしたことがあるけど...全然よく知らないから、生活のことも勉強のことも友だちのことも、何をどうすればいいか想像すらつかなくて不安だなあ。



不安をおおることを言わずに 帰国後に通う学校での生活を思い描かせる

やってよかった! ●帰国が決めた段階では、9月編入に向けて願書を出す必要なければいけないタイミングだったため、とりあえず書類などの準備を早くして、一度帰国して受検...というところまでこぎつけた。このため本帰国の1カ月前にはすでにおおかたの進学先・編入先を決めることができ、子どもは気持ちが少し落ち着いてきたようだった。日本での生活が少しずつ見えてくるにつれ、受け入れる気持ちが大きくなっていったように思う。(Tさん)

やればよかった... ●帰国後に編入する学校の様子などをもっと話してあげればよかった。「知人を介して、同年代の在學生と直接連絡を取って話を聞く機会を作った」という帰国生の保護者もいて、そういうことでもしてあげられていれば、と感じた。(Sさん) ●遅刻してはいけない、授業中だらしなない、朝礼・始業式などの式中はおしゃべりひとつしなないことを伝えて、不安にさせてしまった。もっと日本人に対して楽しいイメージを持てるようなことを話してあげるべきだった。(Aさん)

2月2日(火)

夕食後、お父さんに「ちょっと話があるからおいで」と言われた。何事かと思ったら「7月中旬に日本に帰ることがきまったから」と言われた。半年くらい先のことだけど、ずっとアメリカで暮らしていた私にとっては大ショック。日本に住んでいたのは10年も前のことだから、どんな国かもあまり覚えてないんだけど.....



一時帰国はできるだけして 帰国の話も前々から少しずつしておく

やってよかった! ●子どもは、帰りたい気持ちと帰りたくない気持ちとが複雑に入り混じった様子だった。うちの場合は初夏帰国。滞在先の学校の卒業式にも出ることができ、きりのよいところで帰国できるのはありがたいことだと強調した。(Uさん) ●前々から帰国の話が出ていたし、親友も帰国していたので、子どもはそれほどショックを受けているようには見えなかった。親としても、子どもの英語と日本語両方の勉強がどっつかつたようになっていた時期だったので、少しホッとした。(Wさん)

やればよかった... ●帰国が決まってショックを受けている子どもに、「しかたないよ」というようなことしか言っていられなかった。親である自分もショックだったので。あのとき、もっと子どもの感情や愚痴を聞いてあげればよかったなと後悔している。(Mさん) ●帰国前は帰国後の学校生活への不安もあり、ストレスがたまっていて、いらいらしたりふさぎ込んだりすることもあった。どうして現地での最後の思い出作りをしかりするなどして、前向きな気持ちを持ってするようにしてあげなかったんだろう。(Yさん) ●「帰国はいつ?」と聞かれたときあまいいな返事をしていたことで、告知のときの子どものショックを大きくしてしまった。わかっている範囲での情報を子どもと共有するべきだった。(Kさん)

やればよかった... ●一時帰国の回数をあと数回増やしておけば、と思った。(Iさん)